

生き別れた母と再会し、大人の息子は母とシャワールームや銭湯で濃密セックス



ここは大都会のと真ん中。

ゆっくりと鉄道と国道の総合ターミナルで停車するバス。

長距離夜行バスは6時間の長旅を終えて目的に辿りついた。

朝日が白く光っている。

大都会の夜は明け、今日も慌ただしい一日が始まろうとしている。

ネットで購入したバスのチケットを運転手に渡し、タケオはバスの階段を下りるとスマホを確認する。

地図アプリで場所をチェックすると、足どり弾ませて向かった。

「母さん・・・・・・・・！！」

昔生き別れた母に会いに行くのだ。

太ももの肉付きのいい、胸の豊満な色気全身に漂う母であった。

声は優しく穏やかな性格をしていた。

母の家は駅の近くであり、歩いていける距離にあった。

一歩一歩前に足を踏み進める度に、その足取りに比例するかのよう高まる胸。

見渡す景色が輝いて見えた。

それと同時に、タケオのジーンズにしまい込まれたブリーフ型下着の、更に内部に斜め47度にぐにゃっと曲がって密着している大きなペニスは、その密度を一気に上げて固くなろうとしていた。

歩行者に見られてはいけない。

ジーンズを突き破りそうになってしまう。タケオは冷静に深呼吸し景色を見渡した。

坂の途中にあるマンション。

ポケットのスマホアプリを取り出し場所を再確認すると、タケオは中へと入った。

マンション名は” ディープラザ”。

大理石の玄関の門に新しさを感じる文字型で刻まれている……………。

時はさかのぼり数ヶ月前。

実家近くのカフェがその頃タケオの行きつけになっていた。

そこで、タケオは母の友人と再会する。カフェの店主に会いに来た時のことだ。

彼女は離婚した母に付き添う形で母と一緒にこの街を出た。

現在は都会で母とバーをしていると話してくれた

随分と色気が増したのにびっくりしたタケオ。母も彼女同様にあの頃とは変わり果てているのだろうか。

話しているだけで鼻血が出てきそうだった。

複数のバーの経営者でもあるのだという。

母との近況を聞き、タケオは懐かしさにどうにもならず……………。

「俺……………このままじゃ嫌だ!!!」

決意したのは、父が母と離婚して以来ずっと頭のどこかに母のあの素敵なお
っばいがあったから。

あのおっばいを吸える年齢に自分はなった。その確信があった。

そして母もまた、とんでもない女性へと変わっているのだろう。

母と再会を果たすことがタケオを突き動かす……。

マンションのエレベーターを上がる。鼓動はもうピークに達していた。

————— 体験版は以上になります。—————